

2022年5月10日

稻荷物語

～ケモ耳姉妹との出会い～　台本

癒月華×黄昏の揺り籠

設定について

・**禄寿旅館(ろくじゅりょかん)**

日本のとある山奥にある旅館。都市伝説として存在 자체は噂されており、その噂を知った主人公が量感を探すところから物語が始まる。

人間が出入りできないように、結界を張った鳥居の奥にあり、基本的には人間ではない者のお客を対象にしている。本来鳥居を通過しても旅館のある場所にはつながっておらず、通過しても特に何も起きないが、鳥居の結界を抜けられるものは、旅館のある異世界へと入ることが出来る。

過去に人間が訪れたこともあるが、それは姉妹が来る前なので、人間のお客様との接客が初めてになる2人の姉妹は主人公に興味を持つ。

・**ケモ耳姉妹**

後述の琴、鈴の2人姉妹。若い姉妹ではあるが、狐を獣人化した存在であり、見た目以上に永い時を生きている。同世代に比べると若い方になる。旅館での勤務はここ数年での出来事。

・**琴 ケモ耳姉妹の姉。禄寿旅館の女将を務める。**

普段はしつかりしているが、天然などもある。人間で言つて、19歳頃の見た目。眼鏡をかけているが、いつもかけているわけではなく、女将としての仕事している時は眼鏡を外している。

・**鈴 ケモ耳姉妹の妹。禄寿旅館の女将見習いを務める。**

おつちよこちよしながら頑張り屋な一面も持つ。姉よりも年が若く、見た目も15歳位でロリータ体系。料理が得意で、山菜の採取や人間世界で食材や調味料を賣いに出かけることも。

・**主人公**

都市伝説めぐりが好きで、今回の旅館の噂を知り、探索に乗り出した。

実は幼少期の頃、両親と一緒に山登りをしていた際に、琴と会っているが、2人とも覚えていない。その時の縁がきっかけで人間が通れない鳥居をくぐることが出来る。

・**その他**

主人公が働き始めてからのお客様と接する描写は省き、姉妹との交流を中心に描写。
旅館の従業員も姉妹のみ登場している(今後派生作品で題材にする可能性あり)

トトハクー

姉妹との日常

■ 話題
1~4話題

■ 場所
山道

- 1 ◇おじいちゃんの説教 SE
- 2 琴 『あのー……あなたさん、突然お隣街から…やつかって何がお隣様ですか?』
- 3 琴 『ハーハー、ハ、ハ…何か返事をしていただけませんか…?』
- 4 琴
- 5 ◇想ひの歌の歌詞
- 6 琴 『わみの山の歌はお隣様ではなく、ただお隣の歌ひだけが…。』
- 7 琴 『ニヤ、ドヤ!』の場所へ人間が来るなんて、滅多にならないんだ…』
- 8 琴
- 9 琴 『ああー、ハハー、派手しなでしゃだせこ、なんでもありますから』
- 10 琴 『ヒツネバア、あなたは人間…のものじゃね』
- 11 琴 『ヒツネバア、ハの…先ほどの視線を感じるよつた氣が…』
- 12 琴 『ハハカシナしたか?…何か…あり…やしかつて』ね、ですか?』
- 13 ◇おじいちゃん SE
- 14 琴 『ハセキの距離…人間」とつては、珍しいですね』
- 15 琴 『ハー、壁のむかいであげたじとやかさう…ハリハリ人が壁のせ|不思議なへどやね…』
- 16 琴 『ハツネバア、ハリハリ何をしに来たのか、あなたのハルを教えてへだせこ』
- 17 琴 『教えていただけだら、わよひよせ…教えてるかもしねおやく』
- 18 琴 『うー…ハリ…ハリ…』
- 19 琴 『なるほどあなたは…嘘は…クンクン…ハリ…』
- 20 琴 『あなたはなぜ、誠実な人のよひな匂いがしますか』
- 21 琴 『つまつ、あなたはハリハリ何がある!とを知つて訪れたのです』
- 22 琴 『やつかく、ハスな人里外れた場所に来るなんて珍しいドヤー…』
- 23 琴 『ハスも嘘く嘘く案内差し上げないとこもせんね』
- 24 琴 『などよつてのことを知つて訪れたのでしたら、あなたはお隣様になつますが、』
- 25 琴 『お隣様のハリハリ心を込めて精一杯、ねむくなし致しましたね』
- 26 琴 『申し遅れました、私の名前は琴と申します、宜しくお願い致しました』
- 27 琴 『ハセキの壁…旅館へ案内致しましたね』

- 1 ◇歩く足音 SE
- 2 ◇歩む足音 SE
- 3 ◇歩む足音 SE
- 4 琴 『うううめの廻田…廻して道も多か うたうよひへ。』
『人が歩くにせ藏し、獸道だいたのではないかと呼ぶが…』
- 5 琴 『私ですか… 私せうひトイヒセなうじゅも』
『人でぬねお脚様もつや峰に歯を生やして、世あかう…』
- 6 琴 『どう、具体的な井戸をいつやせなうじゅかうだ、されは秘密だ』
『うえどや世界としてせ女性に分類われ…うて、待つて… お姫様、その島田せ…』
- 7 琴 『人でぬねお脚様もつや峰に歯を生やして、世あかう…』
- 8 琴 『どう、具体的な井戸をいつやせなうじゅかうだ、されは秘密だ』
『うえどや世界としてせ女性に分類われ…うて、待つて… お姫様、その島田せ…』
- 9 琴 『人でぬねお脚様もつや峰に歯を生やして、世あかう…』
- 10 琴 『どう、具体的な井戸をいつやせなうじゅかうだ、されは秘密だ』
『うえどや世界としてせ女性に分類われ…うて、待つて… お姫様、その島田せ…』
- 11 ◇何か神秘的な音 SE
- 12 ◇歩む足音 SE
- 13 琴 『バ、島田をへぐれだ…。うひー…』
- 14 琴 『う…ですか… 私は何を聞くのも簡単…。う…』
- 15 琴 『う…ですか… 私は何を聞くのも簡単…。う… なんでもなうじゅ』
『説明を續けやね、島田をへぐつもしだのド前方に建物が見えてるよ』
- 16 琴 『あわ、うが、お姫様の宿泊される旅館になつま』
- 17 琴 『われやせ、うのまほ入り口に回かんしも』
- 18 琴 『われやせ、うのまほ入り口に回かんしも』
- 19 琴 『われやせ、うのまほ入り口に回かんしも』
- 20 ◇旅館の入口が開く SE
- 21 琴 『段付せうじゆうじなつま』
- 22 琴 『お荷物せ後せど、妹の鎧がお姫様もど掛いてるや』
- 23 琴 『おかせ段せからぬ願い致しまわ』
- 24 琴 『うみの廻田や峰にお客様の名前を記載してや』
- 25 琴 『うみの廻田や峰にお客様の名前を記載してや』
- 26 ◇夜籠にぐ、ハド軒こころやSE
- 27 琴 『う…う…う…おや宿を確認致しました、次に…』
- 28 琴 『うねバ… もう掃除終わったの？ あれ？ その人だあれ？』
- 29 鈴 『尻尾も向かひこじないかい、人間みたゞ…ああ… う… もしかして外の人ひー…』
『ぬまひと走りて鎧、あんまつ大瓶を用ひなう』
- 30 鈴 『うねバ… もう掃除終わったの？ あれ？ その人だあれ？』
- 31 琴 『うねバ… もう掃除終わったの？ あれ？ その人だあれ？』

- 1 琴 鈴
『じゅう、おの方は、わざわざ桜寿旅館までお越しへいたお客様よ』
『今、歌伎としてから鈴は先に船屋あどね客様の荷物運んでる。』
- 2 琴 鈴
『ハーハー。今休憩中の二一。』
- 3 琴 鈴
『やハ……後で一緒に遊んでお仕つかひ、運んでねやがだい』
- 4 琴 鈴
『せえひー。』
- 5 琴 鈴
『琴ねハ遊ぶの迷ひなー、二三の船屋に持つてこへ。』
『ハーハー、船屋の確認がまだしてなかつたわ』
- 6 琴 鈴
『お客様、私のお手すみの朝露の匂でやめこでしょいか？』
『…せ、畏もつもした…鈴、朝露の匂に荷物をお願い。』
- 7 琴 鈴
『朝露の匂だね…、ふもつかい…、持つて琴ね、荷物を運ぶ船屋…』
- 8 琴 鈴
『ハーハー、まだしてしなかつたわね』
- 9 琴 鈴
『…』
- 10 琴 鈴
『…』
- 11 琴 鈴
『…』
- 12 琴 鈴
『…』
- 13 琴 鈴
◇ドヤレサセ演劇様のマイハケを畳むせて回転!』
- 14 琴 鈴
『『おぬ様、桜寿旅館くわい』』
- 15 琴 鈴
『…』
- 16 琴 鈴
『…』
- 17 琴 鈴
『…』
- 18 琴 鈴
『…』
- 19 琴 鈴
『…』
- 20 琴 鈴
『…』
- 21 琴 鈴
『…』
- 22 琴 鈴
『…』
- 23 琴 鈴
『…』
- 24 琴 鈴
『…』
- 25 琴 鈴
『…』
- 26 琴 鈴
『…』
- 27 琴 鈴
『…』
- 28 琴 鈴
『…』
- 29 琴 鈴
『…』
- 30 琴 鈴
『…』
- 31 琴 鈴
『…』

トトシクル 施設巡り

旅館内

■時間
14時頃

■場所
旅館内

◇荷物を持ち上げるSE

1 鈴 『やれじやお黙ねへ、お客様、荷物運んでくれー。』

2

◇鈴の返すSE

4 琴 『鈴ー… 慎重にねー… はあ…もひたく鈴せ…』

5 琴 『えいふ、すみません…お見苦しこじいわをお見せつけられ』

6 琴 『私と違ひて、まだ歳頃の妹でしょ、昆明みなみです』

7 琴 『わしかったいお嬢様の酒呑中の體にも遊びに行くかもしされませ』

8 琴 『「」迷惑なことでも私に呪ひしてだれかな』

9 琴 『あ、すみません、渡付の途中でしたし、私も眼鏡をしたままでしたね』

◇眼鏡を外すSE

11 琴 『説明を再開致します、酒呑の行程は、一泊二日でありますから。』

12 琴 『…異もつもした、続かれてお食事に向こうになつまゆ』

13 琴 『御饌やらせ、宿泊されるお客様に命ねむいて、「田舎ねつまゆ」』

14 琴 『朝食ヒタ食の2回」」田舎ねつまゆが多めです』

15 琴 『この近くに観光する場所やお食事処はなく、御饌のみとなつます』

16 琴 『お客様は、人間なので朝、風、夕の3食のお食事の方があのじうどしまつたか?』

17 琴 『せこ、おこがとい、」」せこがわー。』

18 琴 『ね結構く配膳する部屋食、おたは賓食場や大広間でお召し上がりになつまわなか。』

19 琴 『本日は、他の宿泊客の予定がないので部屋食をおあわせ致します』

20 琴 『…。今のは、おすすめと云ひよつ強調してござるやうでしたね』

21 琴 『失礼致しました、お客様のお好きな方をお選びくださいませ』

22 琴 『…部屋食ですか、異もつました。』

23 琴 『受けは以上となつます。」」およつ館内を案内致しましたね』

24 琴 『ふいふい、今更になつますが、お客様…」」せん、田舎様の方がよひこひしょひた』

25 琴 『ふい、それでは田舎様、どうか気にならぬ施設せばれこおつか。』

26 琴 『浴場ですね、私の後にこじておいでください』

- 1 ◇~~呪詛~~ SE
『浴場に向かいながら、他の施設も説明致しました』
- 2 ◇~~呪詛~~ SE
『お館にせこくつか施設が「やれ」とあります』
- 3 琴 鈴 『先ほどお詰めしました食事場と大広間、娛樂部屋、カラオケ室…』
- 4 琴 鈴 『田那様の「利用」なる可能性のお問い合わせの ragazzoさん』
- 5 琴 鈴 『田那様の「利用」なる可能性のお問い合わせの ragazzoさん』
- 6 琴 鈴 『田那様の「利用」なる可能性のお問い合わせの ragazzoさん』
- 7 琴 鈴 『田那様の「利用」なる可能性のお問い合わせの ragazzoさん』
- 8 ◇~~呪詛~~ SE
『いや、私が浴場となつておつまむ』
- 9 琴 鈴 『え、今、人の旅館で、少々値の張る宿となる檜風呂や露天風呂となるドーム』
- 10 琴 鈴 『まだ、内浴は田舎に置いてあるのか、小串子を「貰へだれ」』
- 11 琴 鈴 『「されば浴場の案内せどりになつたが、いかがでしょいか?」』
- 12 ◇~~呪詛~~ SE
『お風呂のベビーチェアが用のじます』
- 13 琴 鈴 『わし家一ヶ月ね」貯金でしたら、入浴前にね瓶かさへだれこめか』
- 14 琴 鈴 『まだ、内浴は田舎に置いてあるのか、小串子を「貰へだれ」』
- 15 琴 鈴 『「されば浴場の案内せどりになつたが、いかがでしょいか?」』
- 16 琴 鈴 『「田那様……、ふるひ、田那様つたら……やつ……」』
- 17 琴 鈴 『「ふるひ、すみません……かよつと様子がおかしくない』
- 18 琴 鈴 『「だつて田那様、案内中にずっとひとつひとつしてくるんだから」』
- 19 琴 鈴 『「ぬれなつてもかかりますよ、私の医師…ですかね…」』
- 20 琴 鈴 『「ぬれなつてもかかりますよ、私の医師…ですかね…」』
- 21 琴 鈴 『「ぬれなつてもかかりますよ、私の医師…ですかね…」』
- 22 ◇~~呪詛~~ SE
『わづ、だぬぢやもー、勝手に触れいとしこじやべだれー』
- 23 琴 鈴 『今は案内中のですから、まだの機会にお願いします』
- 24 琴 鈴 『わづ、案内を続けまして、田那様の酒呑われぬ宿題に行きました』
- 25 琴 鈴 『せー、泊めてる間にひつね願いします、田那様ー』
- 26 琴 鈴 『あれば…錦がお船屋の前で待つておきますね、錦一』
- 27 ◇~~呪詛~~ SE
『あー、お客様に尋ねて、案内終わつたの?』
- 28 琴 鈴 『ええ、やつれ、お客様じやなくて田那様じやねん』
- 29 琴 鈴 『せー、泊めてる間にひつね願いします、田那様ー』
- 30 琴 鈴 『せー、泊めてる間にひつね願いします、田那様ー』
- 31 琴 鈴 『せー、泊めてる間にひつね願いします、田那様ー』

トトック③ 食事(夕食)

■ 齧顎

1 の特徴

■ 場所

宿泊施設

- 2 琴 琴 琴 『田那様、 ゆくつらドシモウカ~』
『失礼します、 もちろん夕食のお齧顎になつますが、 お持たレントヤ大丈夫でしょウカ~』
- 3 琴 琴 琴 『かっこいいもつぱつだ、 すぐにお持ち致しますわ』
- 4 琴 琴 琴
- 5 琴 琴 琴
- 6 ◇ 食器を置くよつた音 SE
- 7 琴 琴 琴 『お待たせ致しま...ああ~、 すみません、 おっかとう! やれこれもナ』
『ですが田那様、 あまり私のね仕事を奪わなこじくだやしない。』
- 8 琴 琴 琴 『私、 いれでも当館の女将なんですか?』
- 9 琴 琴 琴 『ふふ~! 尻談です、 少し、 田那様を、 からかいたくなつておもひます』
- 10 琴 琴 琴 『あ~、 でも、 女将なのは本業ですか?』
- 11 琴 琴 琴 『あ~、 その趣は理解しませうね~』
- 12 琴 琴 琴 『われな~、 女将のこへね田舎した料理の説明を致しまわね』
- 13 琴 琴 琴 『本田の味噌漬け... 堀麻豆腐、 さんわんば、 豪華の天ぷら、 炊き込み御飯...』
- 14 琴 琴 琴 『最後に、 トマトせねるび餅になります』
- 15 琴 琴 琴 『うそ~へへ~... ねいど、 私が腰ぬと落ち着かなこやうね』
- 16 琴 琴 琴 『何かあつめしんだ、 おひの水槽を使つて、 こつでもねえとせんべいだやしない』
- 17 琴 琴 琴 『ねぎ鹽く練豆した歯に説明がやれてこまやくでしんだね』
- 18 琴 琴 琴 『あの枕の上に置いてある水晶かい、 ラジカルのレモンを含む水槽がでやね』
- 19 琴 琴 琴 『人の旅館でさ露詰じこつわのがおるアヒドクが、 当館にせたつわのドン...』
- 20 琴 琴 琴 『その代わりに妖術を応用したものがあの水晶になつまわ』
- 21 琴 琴 琴 『でも、 田那様、 夜中にイタズラで留めのせつないでやれよ...ね?』
- 22 琴 琴 琴 『あた運命こを聞いて何こおするのや、 失礼します』
- 23 琴 琴 琴
- 24 琴 琴 琴
- 25 ◇ 横を聞く音 SE
- 26 ◇ 夜を感じる環境音 SE(ハクロウが鳴くみたいな感じで時間経過)
- 27

トトシクリ 食事(朝食)

■ 盛皿 7 時頃
■ 場所 宿泊船屋

◇鳥の鳴き声 SE

- 2 ◇襖を開けた音 SE
- 3 琴 『失礼しました、田那様、昨晩せせりへつ歸れましたか?』
『…良かっただよ、ありがとー』
- 4 琴 『朝食を「田嶽田来ました」お持ねました』
- 5 琴 『お品書きせざるをいの遺物、極野田庭、ひじき、お味曾大、おかゆになつたや』
- 6 琴 『私が、おもろいおもつだこのは、お味曾大です』
- 7 琴 『…』
- 8 琴 『…』
- 9 琴 『…』
- 10 琴 『ああ、…』
- 11 琴 『…』
- 12 琴 『…』
- 13 琴 『…』
- 14 琴 『…』
- 15 琴 『…』
- 16 琴 『…』
- 17 琴 『…』
- 18 琴 『…』
- 19 琴 『…』
- 20 琴 『…』
- 21 琴 『本通りあたつ…。作ったかいがあつあつだ』
- 22 琴 『ああ、…』
- 23 琴 『田那様と膳をつけてお坐してお話を聞れました』
- 24 琴 『わざわざ、お料理を見てお膳に行きましたね、失礼しました』
- 25 ◇襖を開いた音 SE
- 26

トラック6 お客様から従業員へ

■時間 14時頃

易经

◇複数人の足音

『井上お嬢』はかをんてされ

卷之三

『琴ねえ、日那様は、あつちの人なんだから、あんまり引き止めちゃだめだよ。』

『そうね、ここは女将としてお見送りするといふよね』

『うんうんをうじやないと曰那様に氣を遣わせたやうもん』

金言集

卷之三

『ええ……まあ、客足が少ないとましいえ、人手が足りてないのは本當ですが……』

『その事が何か…はい、はい…はいつ！？

「旦那様は人の身なので、わざわざこちら側に身を置かすともよいのですよ」

卷之三

『考つと支配人も一つ反対でアリガれるでしょ?』

『旦那様、本当によろしいのですね？』

『わかりました。旦那様のお気持ちが固いみたいですね』

『ナニシテスカ』 田口がり色人と考不てじはれ

卷之三

『それに私達と一緒に働いてもくれるん？』

『ほんと！？ やつたやつたあ！ 旦那様と、もつと遊べる！』

- 1
2 琴 鈴 『鈴、嬉しさのせいかぬ上、アヒル遊んでゐねたにせいかないのよ』
3 琴 『わたくし、田那様のお荷物をまたお船屋あじお願い』
4 鈴 『せーこへ』
5
6 ◇鈴の呪術
7 琴 『わいわいと後で手引書をお持ちします』
8 琴 『あい、恐いへんねなこと聞いてのど、私が詠しながら押邊致します』
9 琴 『わの歯に他の従業員も紹介しますね』
10 琴 『ハ、意外でしたか…あ…』
11 琴 『わたくし、田那様、私と鈴だけで旅館を切り盛りしてゐてました…』
12 琴 『なーー、やうが」私と鈴だけで旅館の運営せでやれやる…』
13 琴 『姉妹だけでもやつしらべさせ少々」の【酒せぬよめおも…】』
14 琴 『ふふい、なので、田那様と一緒に働く」となつて嬉しいです』
15 琴 『田那様、これかのよひへん廳へ致しますね』
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31

トトハクア 姉妹の会話その2

	■ 話題	○ 時頃	■ 場所
2	姉妹の部屋		
3	『琴ねべ、田那様の仕事せじやかね。 接客、清掃、園芸』		
4	『接客は私一人で事足りてゐるか。金の手遣はこあたひトキ、もいか』		
5	『まあ、いじに来ぬ田那様にて…琴ねべ田那の方遣いかりだもんね』		
6	『わいへ… 私だつて諂すかしこんだが、ひー…』		
7	『ふーん、ほんれいひわなむれい…私も呑く琴ねべみたゞに大きくなりたゞなあ…』		
8	『いせへ、それせ置こじこ…』		
9	『あー話題変えよーじこへー… おおここさぶ』		
10	『金の方で、せきせこひなせむつたゞ、いわちに来てやまびと、せうへ…』		
11	『わーん…手伝はせ欲しかな』		
12	『今のもせじや多分おわせなこし…でも琴ねべのせりん、せそとに大丈夫?』		
13	『わいせぬひたでしょい。 私は大丈夫だつて』		
14	『わがつひ、私が聞きたじのは田那様と一緒にやなくて大丈夫でいじる』		
15	『あーあー、お姉ちやんに怒られたらのかなあ…』		
16	『待つて、いれは大事な話だから茶化せなこじ落れて』		
17	『わかつたわ…その、田那様が庭に隣にこねる、ね……私が集中できなこの』		
18	『ふーん… くべー。 いつもんだ、それは大変だ…』		
19	『ね、いじめやけ出でつてわひつて、もし手が隣にいたる琴ねべのせりんか、ね?』		
20	『うそ、じこねば、じやあ畠田も町こじ、やへんの裏よいか』		
21	『せーん、おやかみなれこ、琴ねべ』		
22	『ねやかみ、金』		
23			
24			
25			
26			
27			
28			

トトシカ8 鈴との膝枕と耳かわ

- | | ■話題 | 1~4時頃 |
|----|--------|-------------------------------------|
| | ■場所 | 旅館周辺 |
| 2 | | |
| 3 | ◇呪詛 SE | |
| 4 | 鈴 | 『…あー、田那様… もしかして今散歩中ですか?』 |
| 5 | 鈴 | 『私も一緒に散歩していいですか?』 |
| 6 | 鈴 鈴 | 『みんなに心配しなくても大丈夫ですか?…』 |
| 7 | 鈴 鈴 | 『今は休憩時間中ですし、もし何が用事で田那が止めたか?…』 |
| 8 | 鈴 鈴 | 『それでそれで、田那様…』 |
| 9 | 鈴 鈴 | 『次はどこに行きますか? 境内ですか? お庭ですか?』 |
| 10 | 鈴 鈴 | 『せー、質問ならなんでもうこどうも… ええといふぢやー。』 |
| 11 | 鈴 鈴 | 『せーせー…つまう、田舎せいじゅねだるの場所を探してしたんですねー。』 |
| 12 | 鈴 鈴 | 『ねーこついじゅねの庄地へだれこ… ひとつねの場所があります』 |
| 13 | 鈴 鈴 | 『やせやせ、田那様、急ぎますねー…』 |
| 14 | | |
| 15 | ◇呪詛 SE | |
| 16 | 鈴 | 『田那様… じつねじゅよー… ん? えいだったんだとか、田那様?』 |
| 17 | 鈴 | 『やー、やー、…上がりませぬよー。』 |
| 18 | 鈴 | 『私ですか? 私はくーれじゅよー くひねや, わぢゅ』 |
| 19 | 鈴 | 『ふひふひふ… 私、わよひづく、呪ふどしよー』 |
| 20 | 鈴 | 『でも、人間の田那様も私にひいて来れたので大したもんぢやない』 |
| 21 | 鈴 鈴 | 『れおれ、見てください… ね、此の場所でしょー?』 |
| 22 | 鈴 鈴 | 『いりやだみなみの畠畠の田舎せいじゅだわよー』 |
| 23 | | |
| 24 | 鈴 | 『つこやに私の膝枕行けど…なーんて、でもだら畠畠ぢゅよー。』 |
| 25 | 鈴 | 『あせさせ…えべー? こやこやこやー、冗談じゅよ』 |
| 26 | 鈴 | 『うふ…冗談、冗談で…田那様そんない見つめいや…』 |
| 27 | 鈴 | 『す——せ————ふう…本当に膝枕、しおしょいわ?』 |
| 28 | | |

- 1 鈴 『へへ、どうぞお坐なさい』
- 2 鈴 『田舎者一人でボカボカ歩くのだから勝ねばがいいのです』
- 3 鈴 『ねむつむ特ひとー、待つていてせ、だい、だだ田那様ー。』
- 4 鈴 『みんな無事でハラジリと寄つていただべたれー……』
- 5 鈴 『わい、わからもしたー、膝枕しほす、しておまかめー。』
- 6 鈴 『ふわ……田舎がじめもしたのど、田那様……』
- 7 鈴 『ふわ……田舎がじめもしたのど、田那様……』
- 8 鈴
- 9 ◇鈴の膝の上に頭を置く音 SE
- 10 鈴 『えいどうかー、私の膝の感應せ…んのか、やつたら田舎のなんの歎かいたでや』
- 11 鈴 『実せ、ーの場所、鍵持ちをゆう贋引の壁立もく、米ぬるんぢや』
- 12 鈴 『ね仕事や隠ねんと向かあつた壁とか…』
- 13 鈴 『こつやうじの田舎なつに見つめ直して、それからまた腰張りついで、なんぬんぢや』
- 14 鈴 『だかー、田那様も何かあつたらいじ、使つてこうぢやん』
- 15 鈴 『隠ねんには内緒の私と田那様だけの秘密の場所ですか』
- 16 鈴 『なのや…さん…あああー… もう、田那様のた、るー。』
- 17 鈴 『耳でもよ、耳ひー、耳を覗いてだせー。』
- 18 鈴 『うー、見れるやうのじやなこぢやね…んひー、前立耳垂除しだの、このぢやか?..』
- 19 鈴 『わよーんじ、これせ耳垂除しなことじ士もやくね』
- 20 鈴 『あのね、田那様ー、私たちは従業員ぢやもー。』
- 21 鈴 『お客様の距き前立耳かー、せひつて落つてほつだい、大変ですー。』
- 22 鈴 『わつこもつがなこじですねー…今いじじー、田那様立耳かめをしまわー。』
- 23 鈴 『ふうふ…わい、』
- 24 鈴 『ふうふ… 聞かおせー。』
- 25 鈴 『バージやなこじやー、清潔なまつがいこに決まつてこまかー。』
- 26 鈴 『じじかー、田那様は大人しくしてくだれー。』
- 27 鈴 『今かー、船頭にまつて梵天を取つておまかのやー。』
- 28 鈴 『もし迷子じゃ私、おぐ廻こつてそど、大人しく待つてくだれこねー。』
- 29 鈴 『おぐ廻つまかみー』
- 30

- 3 ◇耳鸣り SE
4 鈴 『戻つもつた……「へ、なで出掛けつてのでかー』』
5 鈴 『あんなに黙れどおはよがでるからね、やあ…ああ…』』
6 鈴 『田那様、改めて私の膝の上に頭を置くわいべだわ』
7 ◇鈴の膝の上に頭を置く SE
8 鈴 『あれじやあ田那様、耳かき始めてこれもわね』
9 鈴 『よこしめのう…ああせ耳のKの近くかな…』』
10 ◇耳かき SE
11 鈴 『あ…あ…あ…あ…せ…あ…』 (音吸音)
12 鈴 『かあかあ…かあかあ…かあ…かあ…』』
13 鈴 『かあかあ…かあかあ…かあ…かあ…』』 (音吸音)
14 鈴 『あ…あ…あ…あ…あ…』 (音吸音)
15 鈴 『え…え…かー… 私、いままで丑未にまづか…。ぬかつたです』
16 鈴 『え…え…え…え…せ…』 (音吸音)
17 鈴 『実は黔ねば止む、よし! おひつて、耳かきをしてからもうへてこぬでか…』
18 ◇耳真似もたせ耳を替へ
19 鈴 『鈴はまだ幼いから1人でやつわやダメよ、勝手じゃつたの大変だつて』
20 鈴 『ふふふ、過保護ですよねー』
21 鈴 『でも、みんな黔ねばだから私は大好きなんだなあひー…』
22 鈴 『あー… 今の無しつ… 無しつお願いしちゃー』
23 鈴 『あせせせせ…おつかしこぢやねー、口が勝手に動いて…』
24 鈴 『ふや、せんじ回すつてはるでしょー…あ、手が止まつてましたね、続けあや』
25 鈴 『せんじ回すつてはるでしょー…あ、手が止まつてましたね、続けあや』
26 鈴 『ふや、せんじ回すつてはるでしょー…あ、手が止まつてましたね、続けあや』
27 ◇耳かき SE
28 鈴 『あ…あ…あ…あ…せ…あ…』 (音吸音)
29 鈴 『あ…あ…あ…あ…せ…あ…』 (音吸音)
30 鈴 『あ…あ…あ…あ…せ…あ…』 (音吸音)
31 鈴 『あ…あ…あ…あ…せ…あ…』 (音吸音)

- 1 鈴 『ハニハニ、 シヤム次セヤハシノ世ハ、 ヒルサルナ一』
- 2 鈴
- 3 ◇耳かわす SE
- 4 鈴 『ふハ…ホハ…ルハ…サホ…ホハ…』 (唇吸音)
- 5 鈴 『カキカキ…カキカキ…カキカキ…』
- 6 鈴 『田那様、 もハシ肩の力を抜いてソクスコトベダ! やー! ゆー!』
- 7 鈴 『ふハ…ホハ…ルハ…スセハ…ホハ…』 (唇呼音)
- 8 鈴 『奥の世ハ蟹ノセ、 リリが氣持わらじんじゅね…だいだいん介かうトモレモツト』
- 9 鈴 『かよヒヒ耳かわせお嬢士シテ…ルハ…田那様… カヨヒヒ闘ヒテグモレモルモ…』
- 10 鈴 『蟹ねバヒヒゼ、 築ねヒヒガタヌケドモ…』
- 11 鈴 『田那様もなんとなく、 気でこひぬかもなんドモサム…』
- 12 鈴 『蟹ねバヒヒ少シ振士ヒヌイヒガタヌケルハ…ヒン…ねスハ…』
- 13 鈴 『あハ、 ルハ、 天然です、 天然の世ヒヒ! タタタタモ…』
- 14 鈴 『それで ですね…つこ先田の「シムなんドモサム…』
- 15 鈴 『私が後で食べちうとした、 蟹子を蟹身に食べてたんドモルモ…』
- 16 鈴 『その蟹に蟹ねバザ、 なべて皿のたまご味ニモア…』
- 17 鈴
- 18 ◇腹真似おたは腹色を凌いで
- 19 鈴 『あハ、 リヌエー、 ハハ、 小腹すいちゃつて、 パくく…』
- 20 鈴
- 21 鈴 『ドキモ… 私の娘なガハ、 ルの…同歎くて回も回ハなハッモント…』
- 22 鈴 『だまヒ見カズ、 ねねや、 ルカタダ婆…あれは最高の癡ヒドモ』
- 23 鈴 『蟹盛りヒタコソヒシルの蟹ねバダ! カムリハ、 蟹大なエドモモモ…』
- 24 鈴 『ねヒムル…田那様?、 耳の世ハゼ、 リハドモカ?』
- 25 鈴 『私、 カヤスヒヤレテモス…カハ、 ルハカ、 良カヒタドモ』
- 26 鈴 『ヒハ、 初おヒヒてねカドはなヒヤドモ、 初おヒヒ蟹ねバダヒタドモ』
- 27 鈴 『ドヤヒ! 奉仕あヒカムヒシサ粗手のかたヒゼ、 蟹エヤセヒヒヤドモ』
- 28 鈴 『だかムハシヒ集母ヒヤヒヒヌドモ…』
- 29 鈴 『モハ… 笑い事シヤおつまセスヒ…』
- 30 鈴 『あハ、 ドコナム田那様も後で交代ヒトミモス…、 私ヒ耳かわス…』
- 31 鈴 『ヒハヒハ、 ルヒ燒鶴なマクヒー、 人の苦笑を笑つた黒、 重ヒドモス…』

- 1 鈴 『くくへ、わからへだれればせこいへどか』
- 2 鈴 『わぬ休憩やつたじじゆべ、ハベトベペーとおゆうじやへ..』
- 3 鈴 『ねむねむのハドヤカ、ひだり』
- 4 鈴 『』
- 5 鈴 『』
- 6 ◇耳かき声 SE
- 7 鈴 『すへ.....へ.....せああ.....るへ.....』 (呼吸音)
- 8 鈴 『かきかき.....かきかき.....えふへ.....かきかき..』
- 9 鈴 『えへ.....えへ.....かきかき.....』
- 10 鈴 『じれり.....わなへ.....あへ.....もへ』の略れだあー..』
- 11 鈴 『ふへー、これで終わつゝ、田那様お疲れ様でしたー..』
- 12 鈴 『』
- 13 鈴 『藍闇、ですか? あー、多分わつ休憩藍闇終わつてもかわ..』
- 14 鈴 『大丈夫ですー、私がしたくてしむるじよ、どうか、田那様は向むくにしぬこと』
- 15 鈴 『それじ、尋ねてたまひの状況詰してくれば...せあぢか』
- 16 鈴 『だつて私は今、田那様のたぬきの奉仕してくるのやつかー..』
- 17 鈴 『ああ一反夜闇もやうねー、分かつまつしだ、この壁やかくらやひかやこねしやへ..』
- 18 鈴 『あつがふへりやつます、田那様』
- 19 鈴 『』
- 20 鈴 『』
- 21 鈴 『』
- 22 鈴 『』
- 23 鈴 『』
- 24 鈴 『』
- 25 鈴 『』
- 26 鈴 『』
- 27 鈴 『』
- 28 鈴 『』
- 29 鈴 『』
- 30 鈴 『』
- 31 鈴 『』

トラック9 鈴との膝枕と耳かき(反対側)

1 鈴 鈴 『ふふへへ なんだか田那様を見ていいねやうい」よさでや』

2 鈴 鈴 『奥の方さ』

3

4 鈴 鈴

『えいへい あの…田那様.. 前から聞いてみたかった!」よがねつせー』

5 鈴 鈴 『酔ねやべのいふ、 どひ酔ひてゐるでやか~』

6 鈴 鈴 『えいへい わのあわの意味です、 好きとか嫌いとかあぬこやなこですか~』

7 鈴 鈴 『べ、 まあ、 嫌いだつたら一緒にせじないですね…あせませ…』

8 鈴 鈴 『じやあ、 やいせつ酔ねやべのいふ好みなんですよねー。』

9 鈴 鈴 『酔れなへたりて、 じやなこですか』

10 鈴 鈴 『だいて、 最近酔ねやべが田那様の話を聞くの盡りに口なんぢやも』

11 鈴 鈴 『いれせん人とゆ、 トキてるそじやなこかと酔ひてこめしですね…』

12 鈴 鈴 『なへじなへ、 田那様と酔ねやべの意味もひつだつだなあと酔ひてこめし』

13 鈴 鈴 『前々から知つて仕しだつたふへ…わ士じもなこじやんね…。』

14 鈴 鈴 『つゞ、 つゞ…酔醒で初めて…、 あおひ…』

15 鈴 鈴 『ねいわい、 わのいふを聞こてみだかつだんぢやすよ』

16 鈴 鈴 『何いひ田那様のいふじやよ、 いふじに来た理由です』

17

18 鈴 鈴 『えいへいおまか、 えいへやはいおの意味をへぐつたんぢやか?..』

19 鈴 鈴 『わのあだつのいふ、 つこ聞くのをほれいもつた』

20 鈴 鈴 『酔ねやべと一緒に普通に入つたつて…、 つーべ…変ですねや…』

21 鈴 鈴 『いへ、 あのぢやね?.. あの酔ひてこわゑの門ひて置せられるものなへぢや』

22 鈴 鈴 『鳥脇が神様の家の玄闇やわの扉つて話、 聞こだいじなこぢやか』

23 鈴 鈴 『べ、 やわね、 普通なら人扱いの結果が張つてあるでや』

24 鈴 鈴 『なのじ、 やつ簡単に入つてこれなし…せす、 なへぢや』

25 鈴 鈴 『だから田那様は、 えいへやはいふに入つてくれたのかなおひつ』

26

27 鈴 鈴 『鳥脇をへぐつて皆上音がした…やわか?.. いへ、 私はやんた音を聽こだい」よせ…』

28 鈴 鈴 『せこ、 せこ…せこ…、 やいせつわがんなこぢやね…』

29 鈴 鈴 『いの質問はなし、 なしどす、 私も忘れますか?.. 忘れてしまふ…』

30 鈴 鈴 『へこつて語り込んじやこまわね…耳かき再開ですよ…』

31 鈴 鈴 『スペーークかにてこわはすね』

- 1
2 ◇咲かせぬ SE
3 鈴 『あい……ん……おー』の感じで……ええ……やがゆいんだから、
4 鈴 『ん……あい……まあまあ……』のト、結構ですかね…』
5 鈴 『うそいたさう……田原様の為にも……あ、これ以上…』
6 鈴 『もう一歩……ん……あい……ん…』
7
8 鈴 『せー、」この中の咲かせたの終わっ這一か… お疲れ様でした…』
9 鈴 『咲こ、ほんこ、つかまつたね』
10 鈴 鈴 『おうがくはうれしくす田原様、私のわがままに仕あ合ひで…』
11 鈴 鈴 『咲さん、待わねばいのじょいつか、おひるひ、行きましたか…』
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31

トラック10 琴の膝枕添い寝

時間 23時頃

■場所 宿泊部屋

『すみません、少々お手續してしまってからどうぞ』

卷之三

『館内の巡回をして、火の灯が付いて、お風呂を洗ひましたのですか?』

『そのお手元にあるのは、本…ですか？』

【この人が在更に】語る所でしては お身体に障り

『ルルルン』 第二回

『わかりました、二二は一つ、私にお任せください。』

『遠慮なんぞ要らぬとモヨシのです
私は旅館の女将なのですから』

◇お茶を入れる音 SET

『用意ができましたよ
まあ あーたかしものをどそ

卷之三

『いかがでしょう、あつたかいものどうですか？』

『夜中に飲む暖かいお茶は、よりいこそう温まるような気がしませんか?』

卷之三

『どうしたんですか…？』私は、たゞ膝枕をしようとしただけです

『そう恥ずかしがらなくとも、よいではありますか』

正義の本

28

- 1 ◇頭を膝の上に置く者
- 2 琴 『ルリキヤで照れなくてやぶさですか?』
- 3 琴 『田那様、深呼吸して身体をコリシカバヤカトヘーダヤ』
- 4 琴 『私が田図ノサカハ、如セカヒ深呼吸をお願いします』
- 5 琴 『殴りて…殴りて…殴りて…殴りて…』
- 6 琴 『殴りて…殴りて…殴りて…』
- 7 琴 『殴りて…殴りて…殴りて…』
- 8 琴 『まだ少し緊張していますが、リラックスできるところ』
- 9 琴 『横にならなくて済む』
- 10 琴 『ふわ～～お、仕事中なのに、頭のこりがちでした…』
- 11 琴 『リハーサルが抜けてしまつた』
- 12 琴 『ババ、歯箇がお口蓋せこひや錦山口の歯の、ハニ』
- 13 琴 『お、ルリキヤ先程錦が、こんなに大きいつまつたよ』
- 14 琴
- 15 ◇眞面目な顔色を表す者
- 16 琴 『田那様を隠すのは失禮です』
- 17 琴
- 18 琴 『なんでも、せっやくドコロだ……! なぜかハラハラする…』
- 19 琴 『あんな、田那様」握りしめでない口せせめと腰こめか…』
- 20 琴 『やつ變な姿を起るルリキヤの歯…歯…』
- 21 琴 『…うー、これでは緊張がほぐれませんね、失礼しました』
- 22 琴 『ルリキヤ…詰體を表すもん…田那様はどこでここに来たのですか?』
- 23 琴 『ハズハズ…おの口…おの鼻…おの眼鏡…おの耳…何を云ひたか?』
- 24 琴 『ははは…近づくお顔を覗せていただけます…』
- 25 琴 『や、監鏡をしておますが、やつらの瞳を、せりあつ眼だこのです』
- 26 琴 『輪からじだりか!』田を憚ひながらドヘーハリ…』
- 27 琴 『ハーン、やつらの口…やがせない…』
- 28 琴 『へへへへ…! の口…やつらの口…お…お…』
- 29 琴 『たしか、あれは…私が偶然、鳥取の外で妖術を練習してした歯の事です』
- 30 琴
- 31 琴

- 1 ◇回戻ルーチン 開始
- 2 琴 『やあーーー。 ハーーー。 もやーーー。』
- 3 琴 『回復に専念するため体を休めていた私の話、私の皿の前に小切れ男の子が現れまし
- 4 琴
- 5 ◇軽い爆発音みたいな音 SE
- 6 琴 『妖術をつましく使い』なせなかつた私は、その反動によつて痙攣しちゃつた』
- 7 琴 『回復に専念するため体を休めていた私の話、私の皿の前に小切れ男の子が現れまし
- 8 琴
- 9 男の子 『ねえ、耳と尻尾の生えたお姉ちゃん、大丈夫?』
- 10 琴 『えい。 ええ…大丈夫よ』
- 11 男の子 『良かっただー。 ねえ…その耳と尻尾、触つてこらー。』
- 12 琴 『待つて、今はだめ、興味あるのわかんない、耳と尻尾触りなこド』
- 13 男の子 『じやあ…手もダメなの?』
- 14 琴 『手…。 手…分かったわ、手なんのこころね』
- 15 男の子 『お姉ちゃんありがとー。』
- 16 琴 『あのねボク? 私がここに寝たりふを牆にやらぬいやだるよ。』
- 17 男の子 『えいっ! あ…もしかして耳と尻尾が生えてるかも…。』
- 18 琴 『うー、やつなの! それば秘密なの』
- 19 琴 『だから秘密にしていてくれたが、今度はいたずらに耳と尻尾を噛んでやるよ!』
- 20 男の子 『せへへ。 まだ余地あるの。』
- 21 琴 『ハハハ、私の事を秘密にしていてくれたが、絶対噛み付けておこうね』
- 22 男の子 『ハハ、お姉ちゃん約束する…。 あー、やつに行かなきゃバイバイ~』
- 23 ◇男の子が走る音 SE
- 24 ◇回戻ルーチン 終ル
- 25 琴
- 26 琴 『男の子の體中を暖めたりながら、私はなんとか、鳥頭の奥へと入りました』
- 27 琴 『田那様は幼かつたのですからその出来事を忘れていたのかもしれません』
- 28 琴 『しかしながら、心の奥底…潜在意識が覚えていたのやしょい』
- 29 琴 『だから、初めて会った時に私の耳と尻尾のことを触つたがってましたのですね』
- 30 琴 『やしょい鳥頭をくすぐれたのも、私に触れたところ縁があつたからやしょい』
- 31 琴 『あの時は、妖力を感じ切つた後だったから、耳と尻尾は震ひれたくなくて…』

- 1 琴 琴 『やれにシトヤ、あの世の男の子が田那様だつたなア…』
- 2 琴 琴 『田那様は、アホコトの世、お心にこだのか覚えておあか…』
- 3 琴 琴 『ハハ、恥じ田せなかつたら大丈夫で……』「臣親と子継りですか？」
- 4 琴 琴 『本物の田那様とは不思議な縁の導きですか…』
- 5 琴 琴 『ふふ、少々お待かげだわ、私の医麗を…』
- 6 琴 琴
- 7 ◇医麗ニ撫でルネルノウハヌハ SE
- 8 琴 琴 『いかがですか。」この手でニ撫でルネルノウハヌハ體の心地や暖かさも…』
- 9 琴 琴 『あー、おもろ力強く触るなこでくだれど、私の体の一端なのド優しくですか』
- 10 琴 琴 『錆リヤリノモドセシナコのドuka…』
- 11 琴 琴 『あの…私さ、田那様には感謝してふるのドア』
- 12 琴 琴 『不思議な縁で一緒に動く事になつて…醫治錆ガアレルノテニスルナカドア』
- 13 琴 琴 『ハタモド、アツヒナ仕事せかうでハクシ遊ぶリルヤアシ」ながつたので…』
- 14 琴 琴
- 15 ◇医ぐみながい
- 16 琴 琴 『よー一縷に館内をめぐらす風が匂わコレ、掠つゝは大変穢しくて…』
- 17 琴 琴 『ハハ、こ土もせんね、女郎ヒコト」こんな姿を覗かせ…』
- 18 琴 琴 『ハハ、氣にしたハドベダセ…ニニスド、」れは掠し医ぐみやう…』
- 19 琴 琴
- 20 琴 琴 『あなたセビ、取つ品コレハムココレ…』
- 21 琴 琴 『田那様ヒコエヒ科も安心しきりやうみだいじ…お医道のあづがルハ、ヤルニサキア』
- 22 琴 琴 『ハハ、久押れてこるみだいじ、醫だハハ…』
- 23 琴 琴 『ドシタガ、膝枕を終える前に、最後に一つおほじなこやしあね』
- 24 琴 琴 『あの…おほつ見つあなこドベダセ…やくは期待した田那様アリテモ困つまか』
- 25 琴 琴 『ハハ、」のあだつニ描かれたはねやのドコレ』
- 26 琴 琴 『特に効果とかあやれナドはなこのド、ナ共醫しのゆいわゆのだん匂ひついでやれ』
- 27 琴 琴
- 28 琴 琴 『あんみぞ、リリのよ、やかみた…』
- 29 琴 琴 『本当に子供醫しところおか、れいし匂ふたふるいじが呪文の世なのドア』
- 30 琴 琴 『田那様、私せわわやの失礼しますが、心地良し夢が眠れまわもひ…』
- 31 琴 琴

トトロー2 姉妹の秘密の3

■話題

○話題題

■場所

姉妹の部屋

- 2
3 鈴 琴 鈴 球
4 琴 鈴 球
5 球 鈴 球
6 球 球 球
7 球 球 球
8 球 球 球
9 球 球 球
10 球 球 球
11 球 球 球
12 球 球 球
13 球 球 球
14 球 球 球
15 球 球 球
16 球 球 球
17 球 球 球
18 球 球 球
19 球 球 球
20 球 球 球
21 球 球 球
22 球 球 球
23 球 球 球
24 球 球 球
25 球 球 球
26 球 球 球
27 球 球 球
28 球 球 球
- 『ねえ、琴ちゃん。』
『琴ちゃんせや、田那様の「スミマセ」の時のお話。』
『ふーーー、ない、なかなかこなせないよ。』
『ドヤルハーハー……』
『ドヤルハーハー……』
『ねえに田那様は、琴姫のタイプでしょ。』
『わか、わなこさん……おひがみおひがみねー』
『私も田那様の「とこなおひがみ」、ねえねこだい時がねー』
『わのや…琴姫、魔界王してみたいや… 田那様な、わのや…』
『私にせ難しこや…ドヤ、つー、私ならこらへ来れてるや』
『つー、応援してやねー。ほー、やれじやねー。』
『なつか能やかしへなってきたから、今田せやが魔界だ、ねやあな』
『ふふふ、ねやあなねー。 鈴、おつかれっすね』

トトックー 和菓子作り

——時頃

■時間

2

■場所

調理場

- 1 『あーー。おせちー♪わこわす、田那様ー。』
- 2 『あ、田那様、いかがされましたか？ われわぞ食事もど段を禰だなにて』
- 3 『わしかしておみ食いですかー。ダメドよむへんー』
- 4 『田那様もおひたし…もつ合しでお風なんですかー。我慢してくだらぬ』
- 5 『だけ♪懸ねえひ、実は料理そんない上手くならかの御殿は私が作ってゐるんぢゃ』
- 6 『私たちですか。今は和菓子を作つて、おひであります』
- 7 『お客様があまり来なじ、おせちのトモヤセコ甘味せ欠かせなじー。』
- 8 『とこハーピ、新メニューも兼ねて、とこハ感じです』
- 9 『だけ♪懸ねえひ、実は料理そんない上手くならかの御殿は私が作つてゐるんぢゃ』
- 10 『…あ、すみません、こだ、せぐの、いよいよあるべやうや…』
- 11 『こそこそなる、姉妹かねこー…。』
- 12 『金ー。田那様の前で、これ以上はやめひで…。』
- 13 『…あーー。わゆー♪ 鈴ー。ルハラハラせおもこはねなこでひー。』
- 14 『…あ、すみません、こだ、せぐの、いよいよあるべやうや…』
- 15 『…あ、すみません、こだ、せぐの、いよいよあるべやうや…』
- 16 『金ー。田那様の前で、これ以上はやめひで…。』
- 17 『…あ、すみません、こだ、せぐの、いよいよあるべやうや…』
- 18 『…あ、すみません、こだ、せぐの、いよいよあるべやうや…』
- 19 『…あ、すみません、こだ、せぐの、いよいよあるべやうや…』
- 20 『…あ、すみません、こだ、せぐの、いよいよあるべやうや…』
- 21 『…あ、すみません、こだ、せぐの、いよいよあるべやうや…』
- 22 『…あ、すみません、こだ、せぐの、いよいよあるべやうや…』
- 23 『…あ、すみません、こだ、せぐの、いよいよあるべやうや…』
- 24 『…あ、すみません、こだ、せぐの、いよいよあるべやうや…』
- 25 『…あ、すみません、こだ、せぐの、いよいよあるべやうや…』
- 26 『…あ、すみません、こだ、せぐの、いよいよあるべやうや…』
- 27 『…あ、すみません、こだ、せぐの、いよいよあるべやうや…』
- 28 『…あ、すみません、こだ、せぐの、いよいよあるべやうや…』

7

◆效果音

- 1 鈴 琴 「せひやー、ここ感じー。」
- 2 鈴 琴 『ハハ…分かってはじいたじ、おひいが手にひく』
- 3 鈴 琴 『仕方ないよ、本調子で捨ての手袋を使つてやるんだよ』
- 4 鈴 球 『今口はあくまでメリュー開発だもん、派手じゃない、派手ない』
- 5 鈴 球 『「ルハ」たべですか、田那様…不思議やつは私たわを覗つぬ…』
- 6 鈴 球 『ああ、私たちの口調ですか？ 姉妹で歌詠ふるは皆せりんな感じなんだよ』
- 7 鈴 球 『ルハルハ、姉妹で歌詠ふる必要もなうじよ、田那様もいすれ慣れまくら』
- 8 鈴 球 『わいお次はー、おな板の上に丘穀粉をふっかさるだー。』
- 9 鈴 球 『ハホーー、ほんぐんなく、ね』
- 10 鈴 球 『鉢、このおみおみのとか使へなー。』
- 11 鈴 球 『横かふとハーネンハーフだ、なんでもんな極ご田をこいの』
- 12 鈴 球 『…歌わなー。』
- 13 鈴 球 『ハス…歌わなー。』
- 14 鈴 球 『なんぞれでお願い、私は別の作業に入るから、田那様、おひねけめしよ』
- 15 鈴 球 『モーー、ヒソヒソヒソ、ハハ、ハハ、ここ感じーあー、おおおーー。』
- 16 鈴 球 『田那様、琴ねえが、あれしての體に私せわつ生地作りに入つて大丈夫ですか？』
- 17 鈴 球 『あっがふハジれこまわー。』
- 18 鈴 球 『琴ねー、終わつた、お来てねー。琴ねーにも貢げてもうわなー、だから』
- 19 鈴 球 『わかつたー、やつ終わるかー、ちよつと待つてー』
- 20 鈴 球 『あっがふハ、ひのねは大丈夫ー』
- 21 鈴 球
- 22 鈴 球 『わいわい…お出せりや使わなかつた田玉粉、砂糖、水、おれ金鋸ボールにまわす』
- 23 鈴 球 『ハハ…おれをこ感じーなるほど感やねーおす』
- 24 鈴 球 『ねー、料理でわる人つて、やくな風に漁量ひと田分量なべつに山つた…』
- 25 鈴 球 『ここ感じーに感われても、わからなくなー。』
- 26 鈴 球 『ハハ…山ねだるどあ、それはやつ、なんだけ…やわらじ感じはここ感じだー』
- 27 鈴 球 『なんじなくわかいトシシカ山ねだる…経験を積むのみかな…。』
- 28 鈴 球 『せこ、やつこ、感じにできたり次はーれに舞をしー、かおどり…。』
- 29 鈴 球 『…あー、琴ねえどひつよー、かおどり舞つねーのやれてだー。』
- 30 鈴 球 『こー、今からどう間違ひ仰つかな…』
- 31 鈴 球 『鉢、總ごどや、ねたこじなじなー、アレ、使いトイもこー。』

- | | | |
|----|---|--|
| 1 | 鈴 | 『「えい、 こやどや…』 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | 琴 | ◇咲良ドロップハート詠かれてるやつ |
| 5 | | |
| 6 | 鈴 | 『「へえ、 やねー、 あの、 田那様…」』 |
| 7 | 鈴 | 『今からいつおれのものを貯せてお土産のから、 もう一ひとたび… 田を離れたことない…』 |
| 8 | 鈴 | 『やあー…』 |
| 9 | | ◇妖術効果音 SE |
| 10 | 鈴 | 『「… 魔除あまう使わないと加減がいい、 難しこー…』 |
| 11 | 鈴 | 『「えいどうか、 田那様、 田那様？」』 |
| 12 | 鈴 | 『「あわわわ、 待つて… 今はやめ、 やめて危なうじゃ… 火傷しちゃうや…」』 |
| 13 | 琴 | 『「田那様、 まだ、 見れまさか？ 今は本当にやめてしまわせや」』 |
| 14 | 琴 | 『…氣になるのは分かっちゃので、 なんな躊躇しないでくだせや』 |
| 15 | 琴 | 『「鈴、 」ねえわい 一回戻せし、 戻るのを繰り返したりこころにだよね…』 |
| 16 | | |
| 17 | 琴 | 『～～～(鼻漏)』 |
| 18 | 琴 | 『「はい、 鈴、 」ねえわい』 |
| 19 | 鈴 | 『はい、 とじねど田那様、 ものの妖術なんどうさん…』 |
| 20 | 鈴 | 『琴姉が温ぬなかつた理由、 気になりますか？ ものの姉にはつまよやね』 |
| 21 | 鈴 | 『「」れは単純に得手不得手の問題です、 私が温ぬい、 姉姉が余やす』 |
| 22 | 鈴 | 『「ほっせんじふうじふうじふう… 姉妹なうじせ、 格好いいじゅもね…』 |
| 23 | 鈴 | 『「じやねわい 一度… やあい…」』 |
| 24 | | ◇妖術効果音 SE |
| 25 | 鈴 | 『「ふー…後せわい 一回かも戻せし、 半透明になつてました、 さあよ最終改造です…」』 |
| 26 | 鈴 | 『「」の半透明になつた生地に、 止まり木を敷いた木板の上」「」—そし體こう…」』 |
| 27 | 琴 | 『「えいのう鈴、 今更なうだけ」「」 うつむけ」「」の真面目いへりへり…』 |
| 28 | 鈴 | 『「えいのう、 人の匂いの街」匂いの物に行ひた、 つらじに森野本も匂ひついでるか、 それで』 |
| 29 | 鈴 | 『「アヒル、 あひる」の釋に置きこむねや…』 |
| 30 | 琴 | 『「えい、 私、 お猿わやぐなのここの詠初咲も』 |
| 31 | 鈴 | 『「えい、 詠やたる今ドロヌム匂ひて、 今もども匂かれてなまく、 聞いてなじかひや』 |

- 1 琴 鈴 『ねむへど わだ、お嬢ちゃんはもう少し我じらしくなれ』
- 2 琴 鈴 『せこせこ、ちゃんと詰めてこなさい、繕わ繕わ』
- 3 琴 鈴 『じの生地に生糸を上からもかたね。『毛皮』(小畠)』
- 4 琴 鈴 『やつだいじねや…最初にぬれたおぐるの墨もつぶしで程度にぬれたらね…』
- 5 琴 鈴 『わやさん生地せんこだ』
- 6 球 鈴 『特て鈴、やせうらじいが、やまとこま縫ひの生地が…ね』
- 7 球 鈴 『わかいた、ぬれなごめんの氣をうけた』
- 8 球 鈴 『わく、わかいたね、おづかと』
- 9 球 鈴 『ねえ、意外と手堅ねんだ、ねまくは織手こみ、『ふる』』
- 10 球 鈴 『べいくそ…田那様、』『れが私の娘です…可愛いやも…織つあすか…』
- 11 球 鈴 『なーーと[足踏]たよる…でも、もと本物』
- 12 球 鈴 『黒ねぎの『足踏』たよりてぬるが、今まへてて田舎者もアローハ、ヒレバヤハルカム』
- 13 球 鈴 『じねじね…ぬくぬく 人間やイヤイヤコレ…』
- 14 球 鈴 『わく、なんぢわなーー』
- 15 球 鈴 『あい、あいへじまへじやれ…』『れひなわやや織體だよー』
- 16 球 鈴 『わく、わくかなあ(涙れ)』
- 17 球 鈴 『ふくふく、こやあ次“がこ”も織後…』
- 18 球 鈴 『姉妹が切つ分けだ出島の上にあく』『織女…』
- 19 球 鈴 『北綿糸を手にかかして、他の出島を織“せつ”あく』『ゆくらわ』
- 20 球 鈴 『わく、わく後ば、あくへへ形を整へたり、『完成…』』
- 21 球 鈴 『じい、じいじやか田那様… 私の仕綱麗にやれしるねドン』
- 22 球 鈴 『せえじいじやか… おづかじいじれこあす…』
- 23 球 鈴 『ふくふく、机だつ前でしょ、なべだつて私が生体でやつだぞだか』
- 24 球 鈴 『ここの滅な出來させれかなこと』
- 25 球 鈴 『わいわが鈴、頼つこなれーー』
- 26 球 鈴 『ねだれに、最後のおぐるを包む革、革をふれる大裡にぬれだつて』
- 27 球 鈴 『われほそじーー。今度はた一緒に作ひー』
- 28 球 鈴 『わねぐるー。おー、田那様も一緒にやがなー』
- 29 球 鈴 『わざ、じただらわしそうか』

- 1 琴 鈴
2 琴 鈴
3 琴 鈴
4 琴 鈴
5 琴 鈴
6 琴 鈴
7 琴 鈴
8 琴 鈴
9 琴 鈴
10 琴 鈴
11 琴 鈴
12 琴 鈴
13 琴 鈴
14 琴 鈴
15 琴 鈴
16 琴 鈴
17 琴 鈴
18 琴 鈴
19 琴 鈴
20 琴 鈴
21 琴 鈴
22 琴 鈴
23 琴 鈴
24 琴 鈴
25 琴 鈴
26 琴 鈴
27 琴 鈴
28 琴 鈴
29 琴 鈴
30 琴 鈴
31 琴 鈴
- 『あ～～、せむい……ふむ……ふふ～おふくろ～～～』
『うふ、わやべと美味しい、思ひたよろ上手にやめたかや～。』
『「れな」の新メニアーナードもこさわる…』
『ただ、妖術に頼らうやつて、嘘うへはせないかないよな』
『まあ…まあいい』闇しては後で支配人と相談してハルヒト』
『じつねんば、今は大福を味わいましょ～。その後は食べてから、アドア…』
『田那様もお味、いかがでしょつか～。お口に似つかわか…～』
『良かつた～す～。田那様、一緒に和菓子作りた～だま、おつがいハジマセマホ…』
『わ～、残りもみんなで食べちゃうよ～』
『せーし～』

トロハクー3 琴のマッカージ

- 盆面
マッカージSE
- 場所
マッカージSE
- 1
2
3 ◇ 吸音 SE
4 琴 『お疲れ様です田那様、お風呂の音」「むかつく』
5 琴 『先せじ申しこみされた、マッカージを娘おたごと呼ぶのか』
6 琴 『お客様としての盐せしめせんでしたが、初おもて…ですか』
7 琴 『本田せ精一杯、努めますので、ものしくお願いします』
8 琴 『いや、もうすぐシャンツの状態になつて寝てしまわ』
9 琴 『え…、あの…田那様、服を着たままでなく、脱ふでしまわ』
10 球 『服を着たままでせ、マッカージの効果が高めにいじが出来ませ』
11 球 『何を焦いで…ん、わよひ、田那様何を想像してこぬのですか…。』
12 球 『金輪は脱がなくてこころです… 私は後ろを回してこまかうか…。』
13 球 『トセタオルで巻くなつして寝つて身に兼つてしまわ』
14
15 ◇ 服を脱ぐ音 SE
16 球 『せ、振つ回つても大丈夫…ですか、あつたんぱくあるのか』
17
18 ◇ ベジル(施術)の上に乗る SE
19 球 『せ、」これで準備が整いましたので施術、始めるわね』
20 球 『軽いマッカージですの、専門的なものではなこいから、一層べだれこまか』
21 球 『故ゆれし、回しくね顎に致します』
22 球 『ほくせ、」かののオイルを手へと拂通はへ顎中は塗つてこまかわね』
23 球 『かみつて食たばかりかもしさなこドヤが、やのまほじりムードリコトベだれこー』
24 ◇ オイルを塗る音 SE
25 球 『じてた風に顎中へ…少しづつ擦みせびれてこまかわね』
26 球 『わなわな…わな、わな…わなわな…わ』
27 球 『じついたですね、田那様?』
28 球 『先せじかく…お風呂、濡れてこまかわね』

- 1 琴 琴持ち立てでやもね、 大丈夫です、 やの反応で少からぬやかみ
- 2 琴 『おだい、 お風呂に入前の前だよ〜の〜...叫風れおひだり』
- 3 琴 『私はただ、 背中を擦んでくるだよ〜でやもね...』
- 4 琴 『よこしよ...わなわな...わなわな...』
- 5 琴 『ハハス〜...アハ...わなわな...わなわな...ハ...』
- 6 琴 『田原様、 田々のトモホル... いよなし固ふなにて...』
- 7 琴 『今朝ド娘のから田ー風』やれーおやく
- 8 琴 『スコム...ハス〜...ハ...』
- 9 琴 『ハジメで固ふよ、 やつと私も本氣にならなよとこさせんね』
- 10 琴 『ハハスなごと田原様を気持ちはよヘドヤホセカム...』
- 11 琴 『おも使いにされあがゆのよ、 痛かつたの只感しおすのド燒處しなじドベダヤホカネ』
- 12 琴
- 13 琴 『ススイ...せおひ...ダハ...ススイ...』
- 14 琴 『スルハ...ダハ...ススイ...アハ...』
- 15 琴 『ハハドシヨウカ、 いつも玉来てこよアカム...』
- 16 琴 『ハホホホ、 ハトヤ氣持ち舐れぬひな感シドカネ』
- 17 琴 『だつて、 先せぬよつやね組が漬こいとしなひてこよアカム』
- 18 琴 『わねハズ、 私ヒシセ無因によつゝ、 レのせつが壊シコドカ』
- 19 琴 『最後はハジメを喰らひやく、 ハス...』
- 20 ◇おむねり
- 21 琴 『ススイ...ダハ...ハハ...ダハ...アハ...セオ...スコム...』
- 22 琴 『せこ、 ハジメのドカね...田原様、 カハ寝れヒコドカム...』
- 23 琴 『マラカーフ出ぐて、 体の感じハドシヨウカ』
- 24 琴 『ハツなドカね、 ハス...ハゼベだなだよと舐るハドカ』
- 25 琴 『ハネドマラカージを終わらせよ』
- 26 琴 『おひくつ湯船にいつかつ、 コトハクベントレヒベダリヤニヤ』
- 27 琴 『おだいのハジメ田原様をお持ひしておまかせ、 田原様』
- 28 琴
- 29 琴
- 30 琴
- 31 琴

トトハクーラ 錦山の風呂場で

- 盆面
露天風呂
- 場所
露天風呂
- 1 鈴 鈴 『トトハクーラ 錦山の風呂場で』
- 2 鈴 鈴 『～～～(鼻歌)』
- 3 鈴 鈴 『今口や疲れたあ～や～せ～働いた後せぬ風呂に墜るやね～』
- 4 鈴 鈴 『～～～、今がチャンスね～』
- 5 鈴 鈴 『～～～』
- 6 鈴 鈴 『～～～』
- 7 鈴 鈴 『～～～』
- 8 鈴 鈴 『～～～(鼻歌) SE(えせー～)』
- 9 鈴 鈴 『いせあ～一瞬ねんじ見つかいたる感ひだれか、まぢ、ひなこさ～、やつたくなむよね～』
- 10 鈴 鈴 『ふわ～～～～、坂井わこ～～』
- 11 鈴 鈴 『「これぞ」の旅館で働いてるやつの特權だよね～～』(伸びながら)
- 12 鈴 鈴 『泳こやも…大丈夫、だよね、よし～』
- 13 鈴 鈴 『～～～』
- 14 鈴 鈴 『～～～』
- 15 鈴 鈴 『あせせせ、ハセ黙面だね～』
- 16 鈴 鈴 『せあ…それにしてしも、人間、か…しかも男の人』
- 17 鈴 鈴 『初めの…せいかくだし、もひかし世良くなつたひなあ』
- 18 鈴 鈴 『～～～』
- 19 鈴 鈴 『～～～』
- 20 鈴 鈴 『～～～、誰かこゆる～』
- 21 鈴 鈴 『ド、ドドド、丑いねなれこ～、今ならまだひ、話してあげようよ～』
- 22 鈴 鈴 『うわ～～～、だい、田那様～～、ハセ～～、こいつらのアリ～～～』
- 23 鈴 鈴 『最初から…～、されば失礼しちゃんだ～、おれか入ってこねば世間わざ～～』
- 24 鈴 鈴 『おだ丑圓～～おおお～、ああ、わわい、うわ～』
- 25 鈴 鈴 『～～～』
- 26 鈴 鈴 『～～～』
- 27 鈴 鈴 『こつたたたあ…なんでもあるもや～、ただ転んだだけです』
- 28 鈴 鈴 『うは～、大丈夫、大丈夫ですかひ～、今いづれ来たよ～～』

- 1 鈴 『じゃせ～ん』、世ふに今せ…ね』
- 2 ◇赤面で震え、焦って余裕のない感じ
- 3 鈴 『へへへ……。眞まつたい、今、眞まつたよな』
- 4 鈴 『なんだ来たんですかあ… 私はほつたよな… 今せ来ないで、大丈夫ですか』
- 5 鈴 『何へいせ、眞まつたよですかー、まやせ纏ついていたやう…』
- 6 鈴 『たしかに軽くだ私が悪いです』 不可抗力なせやかのトコロ
- 7 鈴 『ですが… N女の大好きな部分を眞まつたよには変わつおりませへ…』
- 8 鈴 『それとも私のせ纏罪するに極ひなじせん、お粗末でしたか』
- 9 鈴 『ええ、おひどいよな』
- 10 鈴 『れつやお隣ねんみだいな女性に出ぐだる、まだおだやかやがやしれおやぶが…』
- 11 鈴 『私だつて、わひと年を取れば、わひと年大きくなつまやか…』
- 12 鈴 『田那様へ、急にしやがへ…』
- 13 鈴 『わしかつてお腹が痛じ、のですか…』
- 14 鈴 『わづなは少し眠せてくだれ、一晩しとむわ女中、多少なり我慢でもおやか…』
- 15 鈴 『なんや強く異性へ仕しゆべつか… こじかく、眞まつたよな…』
- 16 鈴 『強情ですね…あひ、おひに繋ねばが…』
- 17 鈴 『田那様、油斷しあしたね… 私は」の躊躇を待つていたんですね…』
- 18 鈴
- 19 ◇タオルをバサッと纏め取るSE
- 20 鈴 『おねえさん…あ…あひ、おひ、おひとおねえさん… わわわ、わざわざひやつせひ…』
- 21 鈴 『あのねやか、大やくられて、おねえさんわなへしてやう』
- 22 鈴 『それ…男性のやれなみて知識でしか知らぬ…』
- 23 鈴 『ぱぱい… ぱぱい… 番ねんにせれだるやひの腰こねれねやひ』
- 24 鈴 『あ、おの… わねひ… おねへなひだよやひ…』
- 25 鈴 『あひ…痛やう… 握し手ひやひ…』
- 26 鈴 『わつなつた原因やうわかれひ、わいはいはいはいわせひ…』
- 27 鈴 『何か心地たつせぬつもやへか… じてな別離な事や構はまやへ…』
- 28 鈴 『私じよければ、田那様のお力になつますか…』
- 29 鈴 『じへつたよですか… わざなじとくじくわのなえどやか…』
- 30 鈴 『じへ、田那様が言つたくなこのドおれひ、無理じとせひ…おやぶが…』
- 31 鈴 『…く… 私… しゃこや、』[只詫を…田那様のせかついへんじやなこやうか…』

- | | | |
|----|---|---|
| 1 | 鈴 | 『田舎だらう、 小ちへたぬるでやもねー。 „やお、 田舎へだれー』 |
| 2 | 鈴 | 『大きくなつて困つてゐるやかー、 叫べ小ちへたなこぶ、 なのぢやかー。』 |
| 3 | 鈴 | 『田那様の表情が苦しきひへんか大丈夫ですか。 キハムナヒドヤヌイー。』 |
| 4 | 鈴 | 『我慢せや』金輪田舎や ひいていたれー。』 |
| 5 | 鈴 | ◇前編 |
| 6 | 鈴 | 『あやねー、 頭に、 なにか…熱い…なに、 ハレ…。』 |
| 7 | 鈴 | 『あひ、 田の液体…? 田ののが、 田ねだよ田那様ー。』 |
| 8 | 鈴 | 『わよーと匂いが氣になつますが、 ほおいじり流せまかー』 |
| 9 | 鈴 | 『それよつむ今は…おねーー、 小ちへなつてます。 成功ですわー、 バイシ。』 |
| 10 | 鈴 | 『でも、 不思議ですよねー、 手に擦つたり田の田に小ちへたるなにて…』 |
| 11 | 鈴 | 『ねえ、 田那様の田のハト…。 え、 ハルヒだよか?』 |
| 12 | 鈴 | 『そんな绝望した顔をソドムへたスドム。 ハリセ泡のトントン! ハリセ…。』 |
| 13 | 鈴 | 『あひ、 ハハ…耳を聴かぐふじあれませ…』 |
| 14 | 鈴 | 『ハハ、 ハハ…、 そんな いかがわしい行為だつたんだかー。』 |
| 15 | 鈴 | 『ああひ、 なれど…だから、 田那様はみんな反応なんですよ。』 |
| 16 | 鈴 | 『わよーとあつあすね…ハハ、 そんなに趣を真い青にしなじへだれー』 |
| 17 | 鈴 | 『わよーと、 私みたじな女の手に手を田かしらはせ人の田でせよなこいハト』 |
| 18 | 鈴 | 『聞こたないとあつあすね…ハハ、 そんなに趣を真い青にしなじへだれー』 |
| 19 | 鈴 | 『わよーと、 私は人じやなこですよー、 田那様よりも長く歯を生わしてますか?』 |
| 20 | 鈴 | 『私たちが守るべき袋にわのよつなものはなかつたはずや』 |
| 21 | 鈴 | 『でも…』の「ハリセ私たち、 二人だけの秘密」 ハリセリスリーフルーム |
| 22 | 鈴 | 『埃のハハでは大丈夫でも、 もし琴ねえにバレだら…』 |
| 23 | 鈴 | 『田那様の身に何が起つるか分からせん…ですか?』 |
| 24 | | 25 ◇小版、 写真 |
| 25 | 鈴 | 『まだ大きくなつてしまわれたら、 私が鎮めてあげますね?』 |
| 26 | 鈴 | 『ふふ、 お先に失礼します、 田那様。』 |
| 27 | 鈴 | 28 |
| 29 | | 30 |
| 31 | | |

トラック15 姉妹の会話その4

0
時頃

易斤

姫姫の部屋

- 1 鈴 『酔ねバセ色々々詰ハム黙ハシビ頃張ヒト…』
- 2 琴 『わハ、自分にせ関係ないからヒ…サオ…おやすみ』
- 3
- 4 (小声) 琴
- 5 琴 『れいじ大夫、何も問題ないやんや…』
- 6 琴 『だいじ四那様セ……』
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31

トラック16 最後の夜に琴と

時間

23時頃

場所

宿泊部屋

◆の巻

【旦那様失礼します 今夜は旦那様からお呼びしいがたけて嬉しいです】

『西田、旅立つ間もお仕事だよ……』

『思えば旦那様は初めてお会いしま

『日那様が幼少期の頃にお会いしていたことを忘れたまま再会

【それから、お客様として宿泊され、一緒に働くことになつて…】

『旦那様と一緒に過ごし』が時間はどうでも充実したものでした。

『今更は不思議な時間二』三九の『牛二』、『牛三』

『そのまま動かないで……私の手を見て……田那様』

『ちゅう……口づけしゃいましたね、私の初めてです』

『いつか誰かにと思つていました、その相手が旦那様に相応しいと思いまして』

『私は旦那様の』とを愚ぐると胸かし（はして）張り裂けぞ（て）…

『義理の事』の讀書會に於ける

【見忽れで……うつとりしてしまいます……あつ……】

『続き…しますね』

◇主人公の背中に手を回すSE

『口づけより後になつてしまひましたが、旦那様を抱きしめたくなりまして』

【ああ】……旦那様からも【私よりも大きな手の温もりを感じます】

「おまじめに木代に、和の心の想しが絶がねてし、おまじめに

『でも、その……私の足……、旦那様の、当……うど、ありますな……』

『ううん、こんな風になつているんでしようが……？』

『私、人ではないのですよ…そんな私でも…興奮されたのですか…?』

07

- 1 琴 『ふふへ、田那様はもつねぐわわわわ…』
- 2 琴 『そんな田那様だから、おじいお嬢かれたのかもしれませんや』
- 3 琴 『隣れ上がりついで田那様のモノ…匂ひ墨わく見せつがれ…』
- 4 琴 『動かすに大人しくして…脱がしへ、なこだわか…』
- 5 琴
- 6 ◇服を脱ぐ音 SE
- 7 琴 『…れが人の…男の…田那様のモノ…なのですね』
- 8 ◇眼鏡をクイーンする動作音 SE
- 9 琴 『くべへ世おへふうん…ふむふむ…あへ…すみあせん』
- 10 琴 『間近で见ゆのせ初めて…人の…男性のモノせつなねや』
- 11 琴 『わゆうと興味が出てしまふもじ…おへ、その…失礼でしたか…』
- 12 琴 『あうがくわいわくまく…触りてみてわくこじめつか…』
- 13 琴 『あー…カクン、カクン…脱がつて…』
- 14 琴 『あー…ニヤニヤ…匂ふをして…もか…なべだか私まで…』
- 15 琴 『見たいつて匂を…、私の胸ですか…』
- 16 琴 『ええ、私も脱ぐんで…、ハハ…田那様がハリモジムのドレッド…』
- 17 ◇服を脱ぐ音 SE
- 18 琴 『あはは…、シベシの匂ひるるの…盆地かしこどす…田那様…』
- 19 琴 『えいじゅか、形變じやなじですか…』
- 20 琴 『ハハ…、田那様…、おじいお嬢…』
- 21 琴 『見られてもうと変な感じがして…やの、トコトコ…』
- 22 琴 『わや…、田那様…、わなな手をアソコに觸るのせ…』
- 23 琴 『わ…、胸おどり…やめ…お…、お…、お…、お…、お…』
- 24 琴 『ハ…、隕かに触りぬいて…』
- 25 琴 『あ…、え…、え…、お…、お…、お…、お…、お…』
- 26 琴 『え…、あ…、隕れて…、私…隕れて…』
- 27 琴 『自分の体なのに不思議な感じ…』
- 28 琴 『初めてです、私の大事ない…が、…こんなに隕れているのせ…』
- 29 琴 『田那様だから…しょい…シベ、それしか考へられませんや』
- 30 琴 『あの、私、校えた…じがなくして知識だけなんですよ…』
- 31 琴 『余り、田那様に懶ねよい風ふうが…』

- 1 ◇布団に寝^ル物 SE
- 2 琴 『私は田那様を信じてこなかへ…』のまま^{レバ}だやう』
- 3 琴 『私も貴様…ドモレバモカのド』
- 4 琴
- 5 琴
- 6 ◇挿入音 SE ※立降 体位は正座位
- 7 琴 『ハハ…あああ…』田那様の硬いものが入って来てハ…スベスベ…』
- 8 琴 『ハスナ、 さわなつ…奥まで入れるなん…はあ…アハ…せあ…』
- 9 琴 『ふハ…アハ…ハハ…はあ…アハ…』
- 10 琴 『ハハハ…全然入りましたが、 やがてこわな喰物^ルした…』
- 11 琴 『廉くならヒムバは嘘になつますが…私は大丈夫です』
- 12 琴 『私は田那様と繋がる』とができる嬉しさのドヤ…』
- 13 琴 『田那様、 もひじね顔を寄せてください…ハハ、 ハハドヤ…』
- 14 琴 『わき…ハハ、 今夜は何回でも口アヒト^ルおもかね…』
- 15 琴 『幼い頃の田那様の「ハセ忘れてしもひて」でしたが、 今越せりやコ…』
- 16 琴 『田那様の「ハセを絶対に忘れない」、 田ノ焼きた士^ルのドヤ…』
- 17 琴 『ハハ…少し痛みも残くせあつもせば、 田那様がモハニコトベタれるのドヤ…』
- 18 琴 『ハハ…少し痛みも取れてきました!』のおおじいさん^ルめなこドヤよね…』
- 19 琴 『だつて、 田那様のその表情…切なくて動きたつてお顔になつてこまよ…』
- 20 琴 『わハ、 動いて…ハハですよ、 私なり大丈夫、 ですか…』
- 21 琴
- 22 ◇沸騰^ルSE(タハハ)
- 23 琴 『はあ…あああ…ハヘヘ…せあ…ハ…おぬい』
- 24 琴 『ハ…あ…ハ…ハ…せ…お…ハ…ハ…お…ハ…』
- 25 琴 『あ…ハ…ス…ハ…ハ…あ…ハ…ハ…ハ…』
- 26 琴 『ハ…ハ…ハ…ハ…ハ…ハ…ハ…ハ…』
- 27 琴 『な…ド…ハ…ハ…私の娘だ、 すかあ…』
- 28 琴 『ハ…ハ…ハ…ハ…ハ…ハ…ハ…ハ…』
- 29 琴 『母…ド…ハ…ド…ハ…ド…ハ…』
- 30 琴 『私の大事なヒルハ…シタ…ハ…』
- 31 琴 『ハ…ハ…ハ…ハ…ハ…ハ…ハ…』
- 『ハ…ハ…ハ…ハ…ハ…ハ…』

- 1 琴 琴 「ああ……いいやれやめたか、田那様、わのわのどく表情が…」
- 2 琴 琴 「あれになんだか、ナカで大きくなつて、わゆつた感覚があつまつ…」
- 3 琴 琴 『やつかこへ、田川ひづかへ』
- 4 琴 琴 『叫ぶ氣がすんだない…こじら、私はやんなじる氣にしちゃるよ』
- 5 琴 琴 『だつて、されば田那様が私で氣持ち悪くなつて、心うひじんなのじゃかん』
- 6 球 球 沖縄語 SE(耳の)
- 7 球 球 『あああい……えい……せあ……あい、あんい、えい……せあ、ああい』
- 8 球 球 『あい、せあん……せあ……おい……せあい……えあい…』
- 9 球 球 『ここだよ、田那様、わい田川いなのどよもどー…』
- 10 球 球 『私は大丈夫じゃから、我慢しなうで、私のド氣持ち良くなつてください…』
- 11 球 球 『たしか、イク……いわいへんでもしたよね。マトモだれも田那様…』
- 12 球 球 『田那様のすぐれた、解を放つてください…』
- 13 球 球 『ああ…田那様のイク……いわいへんのどよもどー…嬉しさ…』
- 14 球 球 『田那様の熱さのど、私のナカでこゝせこ熱だれね…』
- 15 球 球 『体がついつて田川へもつた不思議な感覚で…』
- 16 ◇射精 『なぐり表現したりのどよもどー…泽口の華やか匂はれてるもつた感覚です…』
- 17 球 球 『私、震び一ひとこゑもこまか、本物田那様とは寝ないでくださいね…』
- 18 球 球 『あの…田那様、人の身に限られても…』
- 19 球 球 『この旅館のいい、鍋のいい、そして私のいい、貰えていいへだれらね』
- 20 球 球 『あなたは最高のお客様で田那様です、素敵な世間をねつがひがれこぼした』
- 21 球 球 『あだのね越しがおきこねつがわやね』
- 22 球 球 『27 28 29 30 31

トロックーフ ハーディング

■時間	1~4時頃
■場所	旅館受付
1	
2	◇何か環境音か雑巾で作を拭いている作業 SE
3	『琴ねえ、今や終わったよー』
4	『鈴、次はあの床を拭いて、旦那様は倉庫に行ひて…』
5	『まだよ、琴ねえ、旦那様は帰つたんだからもう庭なごの…』
6	『あー…』めんねえ、旦那様が居た頃の癖が中々取れないわね
7	『一緒に居た時間、樂しかったもんね…旦那様、何いっても元氣にしてるかなあ…』
8	『やいふ…元氣にしているわよね、だつて、あの旦那様だもの』
9	『ねいふね、私も元氣な旦那様を鎮めるにて約束したから大丈夫よ、うそ…』
10	『鈴、今のうそ…』
11	
12	◇入口が開く 鈴 SE
13	『あ、しあい…やつだ、琴ねえ今誰か来たよ、お客様の……うひ…あああ…』
14	『鈴、そんなに驚いてるのよ』
15	『…あれ…でも眞庭の結果を通り抜けて…される人は…ひ、ああああ…』
16	『ねえ、琴ねえ、驚いてないで、お客様が来たんだから、あれ…』
17	『あー、それね、うつむのね…う…』
18	
19	琴&鈴 『お姫様、禄寿旅館くわいりん…』
20	
21	
22	
23	鈴 483 ハード
24	鈴 439 ハード
25	